

- ・ グローバル女性リーダー育成研究機構 新機構長就任の挨拶
- ・ 「組織リーダーの望ましさとジェンダー・バイアスの関係
～25社2500人の調査から男女差、階層差を探る」を開催
- ・ 株式会社ブリヂストン連携 全学「未来起点ゼミ」開講しました
- ・ 日本とヨーロッパ型「ソフトスキル」を養う短期研修の実施
- ・ 社会連携講座「女性活躍促進連携講座」開始
- ・ お茶大×カルティエ シンポジウム開催のお知らせ (6月12日)

グローバル女性リーダー育成研究機構 新機構長就任の挨拶

クオータから イコールフットिंगへ

お茶の水女子大学 理事・副学長
グローバル女性リーダー育成研究機構長
佐々木 泰子

本年4月よりグローバル女性リーダー育成研究機構長として、グローバルリーダーシップ研究所とジェンダー研究所の二つの研究所を担当することとなりました。

お茶の水女子大学は1875年に東京女子高等師範学校として創立されて以来、日本の女子・女性教育の中心としてその役割を真摯に果たしてまいりました。しかし、近年、急速なグローバル化やデジタル化に伴う社会の変化、そして歯止めのかからない少子化、急激な高齢化、労働力不足など、対処すべき多くの新たな課題が指摘されています。一方で、今や、ダイバーシティとインクルージョンが志向されるべき社会の姿とされ、その流れの中で女性の立場や役割が重要であることが改めて認識され、待ったなしの根本的な取り組みが推進されなければならなくなっています。ところが、世界的なレベルで女性の活躍指数やグラスシーリング指数を見る限りでは、まだまだ女性と男性が対等な社会となっているとは言えず、政策的な措置による対応が不可欠とされています。とりわけ日本は、残念ながら、欧米との比較においてだけでなく、

アジアにおいてもかんばしい状態ではありません。

しかしながら、そのような中、すでに男女共同参画社会の割当目標を超えているお茶の水女子大学の附置機関であればこそ、グローバル女性リーダー育成研究機構は次の高みを目指し、真正の平等を確立するための先達になるという強い使命感に基づき、日本のみならずアジアをリードする研究及び教育をとおして、女性の社会参画を推進するとともに、リーダーとして直面する課題の解決に現実的かつ積極的に取り組み、持続可能な社会の発展に貢献する人材の育成に邁進してまいりたいと思っております。つきましては、皆様の深いご理解と篤いお力添えを心よりお願い申し上げます。



「組織リーダーの望ましさとジェンダー・バイアスの関係～25社2500人の調査から男女差、階層差を探る」を開催

2019年3月15日(金) 15:30-17:30 共通講義棟1号館304室において、グローバルリーダーシップ研究所セミナーを開催しました。「組織リーダーの望ましさとジェンダー・バイアスの関係～25社2500人の調査から男女差、階層差を探る」というテーマで、野村浩子先生（ジャーナリスト・淑徳大学教授）、川崎昌先生（リサーチャー・目白大学客員研究員）の調査研究の報告がありました。

当日は研究者、学生、企業の方、報道の方など約80名の方がお集まりくださり、リーダーシップとジェンダー・バイアスについて関心の高さが伝わりました。

この研究は日本でなぜ女性幹部登用が進まないのか、というリサーチクエスチョンから、ジェンダー・バイアスに着目され、大手企業25社の約2500人に意識調査を行い、リーダーシップとジェンダー・バイアスの関係を明らかにされました。組織リーダーは、望ましさの程度が似ている男性向きで、女性はふさわしくないというジェンダー・バイアスが存在する可能性を指摘されました。

一方、リーダー意欲に男女差はなく、むしろ昇進希望役職の高低によって差が開くことが明らかになり、より高い役職に就きたいと希望することがリーダー意欲につながることをわかりました。さらに計画的に女性管理職育成を行う企業ほど、また管理職必須研修を行う企業ほど、社員の性別役割分業意識が低いこと、管理職必須のダイバーシティ研修を行う企業では女性のリーダー意欲が高まるという結果でした。日本の企業の調査結果の分析から、女性のリーダーシップを高めることにおいて、会社内の教育、研修の重要性を示唆した貴重な研究報告でした。

報告の後、本学グローバルリーダーシップ研究所所属の佐野潤子講師、内藤章江講師がコメントをし、質疑応答の時間になりますと、会場からた

くさんの手が挙がり、企業で働く管理職女性の現場の声や、今後の研究の課題など話題になり、時間が足りなくなるほどでした。

野村先生と川崎先生はさらに調査を続け、分析を深め、今後も結果と考察を発信されていくということです。

【日時】 2019年3月15日（金） 15:30-17:30

【会場】 共通講義棟1号館304号室

【報告】 野村浩子氏

（ジャーナリスト・淑徳大学教授）

川崎昌氏

（リサーチャー・目白大学客員研究員）

【コメンテーター】 佐野潤子

（グローバルリーダーシップ研究所特任講師）

内藤章江（同 特任講師）

【参加者数】 82名

文責：佐野潤子

（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）



野村浩子氏

川崎昌氏



株式会社ブリヂストン連携 全学「未来起点ゼミ」開講しました

株式会社ブリヂストン連携「未来起点ゼミ」が2019年4月11日に開講しました。同日、昼休み開催の説明会には、大学院生、学部生合わせて19名が集まりました。初回から約40名の高校生、学部生、大学院生が参加し、このプロジェクトの趣旨や、授業の説明に熱心に耳を傾けていました。

第2回はゲスト講師桑原香苗氏をお招きし、対話をテーマにお話しくださり、実際にクラス内で対話をし、自分自身を振り返る大切さを学びました。「日常的に対話ができていると思っていたが、議論は苦手だと気付いた」、「最後の話し合いで自分の主張を自分の言葉で言えた」など毎回提出の振り返りシートにさまざまな感想が寄せられました。

第3回では、SDGsカードゲームを使って、各グループの目標達成から国際社会全体の目標達成まで視野を広げるプロセスをグループワークで体感しました。「それぞれの国の目標達成は難しいが、話し合いで世界共通の問題を解決できれば一番良いのではないかと思う」、「他のチームと相互に助け合いができるようになった。これを実社会でも出来たらいい」という意見がありました



た。時間を追うごとに積極的な発言が増え、グループの話し合いも活発になってきました。

前期は主に、各々が自分の未来を考え、未来の社会にどう生きるかを考えながら、官公庁、企業、NPO法人の若手リーダーの方々をお招きし、対話を通して実現したい未来を具体的に描くことを目標にします。後期はその未来に向かってどのような道筋を辿っていくのかじっくり考え提言にまとめます。提言内容についてフォーラムで発表することも予定しています。

このゼミでは附属高校生から大学院生まで、様々な専門分野の学生に参加いただくことで、学際的な対話の場を提供したいと考えています。

<HP>

<http://www.cf.ocha.ac.jp/igl/j/menu/event/2019miraikiten.html>

文責・本プロジェクト担当：

佐野 潤子（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）、増谷 真紀（同 客員准教授）

日本とヨーロッパ型「ソフトスキル」を養う短期研修の実施

本学は設立当初からグローバルに活躍する女性の育成に徹してきました。今回の「ソフトスキル養成プログラム」もグローバルに活躍する女性を養うことをモットーに構成されています。本プログラムはキャリアデザインプログラムの一環として、参加学生には日本そしてイタリアのコッレージョ・ヌオーヴォでソフトスキルについてその理論を講義形式で学び、その学びをより定着させるために体験的にソフトスキルを用いてさまざまな活動に参加してもらうプログラムとなっています。

本プログラムは通年のプログラムとなっており、7月下旬に開催予定の本学サマープログラムに参加予定のコッレージョ・ヌオーヴォ学生とともにプロジェクトを立ち上げ、その準備のために前期に数回の事前研修を行います。コッレージョ・

ヌオーヴォとはテレビ電話を繋げて学生の交流を図る予定をしています。また、後期には短期研修に備えて、英語による事前講座を企画しております。そして、2020年2月には実際にイタリアのパヴィアに位置するコッレージョ・ヌオーヴォに本学学生が2週間滞在し、現地学生とともにソフトスキルの講義を受け、現地女性リーダーの講演を聞くなど、充実プログラムを企画しております。

本プログラムは今後も継続的に実施する予定で、キャリアデザインプログラム関連の授業を履修済みの2年生以上の学生を対象に次年度以降も募集をする予定をしています。

文責：松田 デレク（国際教育センター 講師）

COLLEGIO NUOVO
FONDAZIONE SANDRA E ENEA MATTEI
PAVIA



社会連携講座「女性活躍促進連携講座」開始

民間企業18社とお茶の水女子大学が提携し、2019年4月から「女性活躍促進連携講座」を開始しました。大学院博士前期・後期の共通科目で、金曜9/10限に通年で隔週開講です。場所は国際交流留学生プラザ2階の多目的ホールです。

参加企業は、女性の活躍に向けた経験や意欲を持っており、それぞれの企業の成果と問題点をこの授業で発表し、問題点の解決策を教員・学生とともに考えていきます。授業だけでなく、シンポジウム、企業でのインターンシップも積極的に展開していきます。院生にとっては企業の現場を身近に知ることができ、企業・業界研究を進めると

いうだけでなく、自分のキャリア形成に大きな見聞を得ることができるでしょう。参加企業にとっては、メンバー企業間の交流活動や情報交換を進めることができ、女性活躍の先進的な取組を広報し、大学院生のニーズや反応を知り、院生と交流する機会を得ることができます。最終的には、調査と分析を進めることで、講座としての女性活躍とダイバーシティ促進に向けての提言をまとめる予定です。

文責：小林 誠
(グローバルリーダーシップ研究所長)

お茶大×カルティエ シンポジウム開催のお知らせ (6月12日)

「お茶大×カルティエ シンポジウム～女性が輝く社会の実現のために～」を、6月12日(水)に開催いたします。

本講演会では、「心の豊かさ」を基盤として、女性が未来を切り開く、女性が働きがいを持てる社会を女性自らが構築・実現するためには、どうすべきかを議論します。輝かしい伝統、ブランド力、激動する社会や情勢を先取りしたクリエイティビティー、革新性に共に裏付けられ、社会へのコミットメントという価値観を共有するカルティエとお茶の水女子大学のコラボレーションにご期待ください。

【日時】2019年6月12日(水) 13:00-15:00

【会場】お茶の水女子大学 徽音堂

【対象】本学附属高校生、学部生・大学院生、教職員、一般

※どなたでもご参加いただけます(要事前申込)



山崎直子氏 宇宙飛行士
1989年お茶の水女子大学附属高等学校卒。1996年東京大学大学院航空宇宙工学専攻修士課程を修了後、NASA(宇宙開発事業団、現・宇宙航空研究開発機構/JAXA)に入社。日本実験棟「きぼう」の開発業務に携わる。1999年2月、NASAよりISS(国際宇宙ステーション)に搭乗する日本人宇宙飛行士の候補者に選ばれ、同4月より基礎訓練に参加。2001年9月に宇宙飛行士として正式に認定される。2010年4月、スペースシャトル ディスカバリー号による15日間のミッションに参加。ロードマスター(物資移送責任者)を務めたほかISSやスペースシャトルのロボットアームの操作などを担当。2011年8月にJAXAを退職後は、内閣府の宇宙政策委員会委員や大学客員教授などを務める。



室伏きみ子氏 お茶の水女子大学長
1970年お茶の水女子大学理学部生物学科卒業。1972年同大学大学院理学研究科修士課程修了。1976年東京大学大学院医学系研究科博士課程修了後、ニューヨーク市公衆衛生研究所研究員。医学博士。1983年お茶の水女子大学助手。講師、教授、理学部長、理事・副学長を経て2015年4月より現職。

【申込】

<https://crdeg.cf.ocha.ac.jp/ocha2/Leadership/cartier/>

【基調講演者】

宇宙飛行士 山崎直子氏



【インスピレーショントーク】

カルティエ ウーマンズイニシアチブアワード
2019年度受賞者

【プレジデント対談】

お茶の水女子大学長 室伏きみ子氏
カルティエ ジャパン プレジデント&
チーフ エグゼクティブ オフィサー
ヴェロニカ プラットヴァンティール氏

※日英同時通訳あり。

※上記の内容は事前の予告なしに変更される場合がございます。お申込が会場収容人数を超えた場合は、受付を締め切ります。

文責：佐々木 泰子(グローバル女性リーダー育成研究機構 機構長)、長塚 尚子(グローバルリーダーシップ研究所 特任AF)

ヴェロニカ プラットヴァンティール氏
カルティエ ジャパン プレジデント&チーフ
エグゼクティブ オフィサー
1996年パリのマネジメントスクールESCPヨーロッパを卒業。マーケティング&セールスの分野でキャリアをスタートし、その後コンサルティングの道に進む。2000年カルティエ入社。パリ本社オーガニゼーション部 プロジェクト コーディネーターとなる。2002年にはディレクターに昇進。様々なプロジェクトを経たのち、カルティエUKのリテールディレクターを経て2014年来日。カルティエジャパン リテール本部長として営業の強化を図ると共に、新たな営業戦略を打ち出す。2017年2月よりカルティエ ジャパン プレジデント アンド チーフ エグゼクティブ オフィサー代理とリテール本部長を兼任した後、現職。

【発行元】 国立大学法人お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 人間文化創成科学研究科棟506室
Tel/Fax: 03(5978)5520 E-mail: info-leader@cc.ocha.ac.jp
URL: <http://www.cf.ocha.ac.jp/igl/>